令和２年度卒業式辞（広島）

３月の和風月の名称は弥生，「草木が益々，生い茂る様子を表す」を意味しているそうです。確かに広島キャンパス正門左手にある，キャンパスの木立も，梅の残り香に誘われるかのように桜，そしてハナミズキの蕾がより一層膨らみをましてきました。しかし，そうした華やいだ季節の到来とは全く異なる空気に，この日本，いや世界全体が覆われていたこの１年間でした。

私達は，ひたすら外出自粛に努め，まさに巣ごもり状態にありながら，経験のない孤独と向き会う生活を強いられてきました。大学の学びもオンライン，クラブ活動の停止，皆さんの健康と安全を最優先した上での対応とはいえ，そうした大学生活を課すことに私達も心を痛めながら，学びの継続を保持するために努力してきました。皆さんは，そうした環境にあっても本当に頑張ってくれました。そして今日，無事に卒業式を迎え，郵送される形ではありますが確実に学位記を手にすることができました。学位記は，それぞれの学科や専攻科あるいは大学院専攻で学んだ知識と技能について，社会でその力を発揮出来る基本的な能力が備わっていますという大学としての社会に対する保証です。そうした苦労を乗り越え，社会あるいは進学へと旅立ちの時がやってきました。

あらためまして，画面の向こうにいる皆さん，卒業おめでとうございます。さらに，卒業する皆さんをしっかりと支え，今日のこの晴れの日をともにお迎えになっていらっしゃる保護者の皆様に対しましても，心よりお祝いの意をお伝えするとともに，皆さんからも感謝の気持ちを是非お伝えください。

さて，世界中がコロナ禍に向かい合ったこの一年でしたが，10 年前の東日本大震災，あるいは 26 年前の阪神・淡路大震災，旧くは，当時の日本人口の 30%が死亡したと推定されている奈良時代の天然痘，江戸時代のコレラ，世界で 4000 万人以上が死亡したと推定される 1918 年のスペイン風邪など，人類は絶えず，細菌やウイルスのパンデミック，そして地震などの災害や危機に立ち向かう戦いの中に身を置かれてきたという現実があります。

ここで，社会へ巣立つ皆さんに是非，知っておいて欲しいことがあります。今年度のコロナウイルスによるパンデミックのような非日常的な状況に，私達はどのように向かい合うべきか，歴史書からの学びとして，いつの時代にあっても困難な社会状況に遭遇した時には，人間の二面性，「利己的と利他的な側面」が際立った表現系として露呈されるということです。今回のコロナ禍にあっても，ウェブ上では誹謗中傷行為が飛び交い，さらには歪んだ正義感による暴力的行為などが顕在化する事例が多く報道されました。一方，これとは逆に，収入が減るなどして困窮している学生達を支援しようと，庄原市内などの住民有志が学生に米や野菜などの食料品を無料で配る活動を展開してくださいました。また毎週金曜日，この広島キ

ャンパスで展開されてきた教職員学生によるフライディオベーション。そして三原キャンパス東側に掲げられている「医療従事者の皆さまへありがとう」の横断幕は，困難な状況の中，骨身を惜しまず医療活動に携わる人への感謝から生まれた行動でした。連帯の絆がそこにはあります。過去の歴史は，パンデミックな状態を収束に導く力は，利他的な人達の献身的な繋ぎ合う力であることを教えてくれています。作家であり，環境問題と人権問題に取り組むレベッカ・ソルニットは，「災害の歴史は，人間は，人との繋がりを切実に求める社会的な動物であることを教えてくれる」と語っています。

人類は絶えず，細菌やウイルスのパンデミックを始め，災害や危機に立ち向かう戦いの中に見を置かれながらも生き抜き，立ち上がり，少しずつ進歩を遂げてきました。人の心に潜む，相反する利己的な野心と利他的な行動ですが，コロナ禍で現実に生じている偏見や分断を煽る利己的な空気と戦い，前を向き他者を思いやる利他的な活動が，災禍を克服するための知恵と力を与えてくれます。

社会へ巣立つ皆さんに是非，さらに心に刻んで欲しいことがあります。利他的な行動の支えとなるのは，多様性を受け入れる寛容な心，そして合理的な創造性を育む志であるということです。象徴的な人物がいます。明治時代から大正時代にかけて活躍した政治家であり医師でもあった後藤新平です。広島キャンパスから海を眺めると似島が目に入ります。1895 年，当時の世界で前例のない最大の検疫施設が似島に作られました。規模はもとより，検疫体制も検疫を受ける人と感染者の完全隔離，蒸気滅菌装置を使用して全ての荷物の消毒まで完璧に行う施設で，後藤新平は設計から関与し，医師としてまた事務局長として任にあたりました。検疫の対象となったのは当時，コレラが大流行していた清国からの日清戦争の帰還兵でした。上陸前の徹底した検疫が行われ，見事に本土へのコレラの持ち込みを阻止することができました。施設の合理的な運営体制や設備，規模について，ドイツの皇帝ヴィルムヘルム2世が「世界一の検疫所」と絶賛したと言われています。若くして岩倉使節団での欧米視察で視野を広げ，自費留学でドイツのミュンヘン大学で医学博士の学位取得などひたむきに学ぶ意欲と新しいものを受け入れる気概と挑戦が彼にあったわけです。彼は，戊辰戦争では幕府側として戦かったことから，朝敵と言われ，反政府的立場にありながらも，彼の優秀さを認めて彼を雇用する寛容さが政府側にあったことが幸いしています。さらに彼自身が多様性を尊重する人物でした。後に台湾の総督府民生長官となって台湾を統治した時にも，「ヒラメの目をタイの目にすることは出来ない」と主張しました。ヒラメの目は一面に 2 つあるがタイは片面に1つずつあるわけです。つまり，台湾社会の特性や文化を理解，そして尊重した統治で台湾人の心を掴むことに成功しました。偏狭な思想や排除の論理では，社会の発展や困難な状況の解決において，力にはならないということを意味していると思います。

さあ　皆さんいよいよ旅立ちです。「春風や，闘志いだきて丘に立つ」 高浜虚子の俳句の世界が今，まさに皆さんの心にあると思います。丘の前に広がる大海原が皆さんをまっています。大海原は時には，コロナ禍のように大きく荒れることもあるでしょう。その嵐の最中にある時，少しでも今日お話したことを覚えていただければ幸いです。

それでは，海に向かって航海してください。私達県立広島大学の教職員は，皆さんにとって，より一層誇ってもらえるような大学を目指して頑張ります。そして絶えず，いつまでも皆さんの活躍を期待し見守っていきます。お元気で。さようなら。

令和 3 年 3 月 19 日

県立広島大学　学長　中村健一